

23 我国の眼科文献集—第一報—

奥沢康正

明治三八年、桑原勇七郎は『日本眼科の証明』を発売した。これは、今日の最も古い眼科文献集となっている。以後桑原は、大正一二年までの一部抄録を記載した『眼科文献集全六巻』を発売し、現在の雑誌『眼科臨床医報』の創刊者となり、今日まで引き継がれている。

その後の眼科領域における文献は『医学中央雑誌』からピックアップしなければならなかったが、昭和三四年から昭和三六年にかけて、弓削経一が日本眼科学会より『眼科文献集全三巻』を発売した。さらに昭和四八年九月～五三年一〇月までの眼科領域文献集が、医学中央雑誌行会より『累積版眼科学一九七三—一九七八VOL三〇一—三六〇』として昭和五九年に発売されている。

以上、歴史的に眼科文献集は今日までに三著者により発売されているが、いずれの文献集においても明治初期から明治一八年までの眼科文献集の記載を見ない。

桑原は第一巻の『日本眼科の証明』の書頭に、明治一八年までの多くの医学雑誌は、すでに散逸し文献集として採集することが出来なかつたと記述している。演者は東京大学法学部所蔵、明治新聞雑誌文庫所蔵目録『東天紅』に記載された明治五年から明治一八年までに発売された医学雑誌を地域別に分類(東京三一、京都五、大阪五、愛知三、千葉三、新潟一、合計四八雑誌)し、この年代の眼科文献集を作成し始めた。これらの眼科論文の特長につき、第一報として述べたい。

現在文献集として採集完了した雑誌名は、以下の出版地別医学雑誌となる。

〔東京〕 醫事雑誌(明治五年創)・醫學雑誌(明治八年五月創)・醫院雑誌(明治八年一二月創)・東京醫事新誌(明治一年二月創)・医事新聞(明治一年四月創)・大日本薬業新誌(明治一三年一月創)・温知醫談(明治一三年四月創)・刀圭新誌(明治一七年二月創)・〔京都〕京都療病院新聞(明

治六年六月創)・醫事集談(明治二二年三月創)・京都医事雜誌(明治一八年)・「大阪」醫事雜報(明治九年五月創)・刀圭雜誌(明治一一年一月創)

次の雜誌については、順次採集を予定している。

〔東京〕東校医院治驗録(明治五年創)・東京医学校医院雜誌(明治八年創)・中外醫事新聞(明治八年六月創)・順天堂醫事雜誌(明治八月一〇月創)・内務省衛生局雜誌(明治九年創)・養生雜誌(明治九年創)・醫範新説(明治一〇年四月創)・衛生新誌(明治一一年三月創)・東京藥舖雜誌(明治一三年一月創)・中外醫事新報(明治一三年一月創)・衛生叢談(明治一三年三月創)・東京醫事新聞(明治一三年五月創)・弘醫月報(明治一三年七月創)・漢譯起癢病院醫事雜誌(明治一三年一二月創)・衛生局雜誌(明治一四年一月創)・成醫會月報(明治一五年二月創)・海軍医事報告撮要(明治一五年創)・和漢醫林新誌(明治一六年二月創)・大日本私立衛生會雜誌(明治一六年六月創)・大日本衛生新誌(明治一六年一二月創)・芝私立衛生會雜誌(明治一七年九月創)・漢洋醫通(明治一八年三月創)・麴町衛生會雜誌(明治一九年一〇月創)・陸軍々醫學會雜誌(明治一十九年創)・

〔京都〕西醫雜報(明治九年一〇月創)・療病院雜誌(明治二二年三月創)・「大阪」大阪府衛生報告(明治一四年創)・大阪醫報(明治一七年四月創)・大阪興醫學社報告(明治一八年六月創)・「愛知」醫事新報(明治一一年七月創)・杏林新話(明治一一年九月創)・四季醫報(明治一三年一〇月創)・「千葉」大日本医事會誌(明治一八年創)・衛生會千葉支會雜誌(明治一八年五月創)・大日本醫事全誌(明治一八年五月創)・「新潟」教育衛生新誌(明治一三年一二月創)・

〔埼玉〕埼玉衛生雜誌(明治一十九年創)

(奥沢眼科医院)